

康德二年
試驗事業方案

亞山農事試驗場
農藝物理科

康 德 二 年
農 藝 物 理 科 試 驗 事 業 方 案

目 次

克 山 農 事 試 驗 場

第 一 試 驗 ----- / 頁

Ⅰ 肥 料 = 関 ス ル 試 驗 ----- / 頁

一 植 木 鉢 栽 培 = ヨ ル モ / / 頁

1 三要素適量試験 ----- / 頁

二 土 管 栽 培 = ヨ ル モ / ----- 3 頁

1 地力減耗試験 ----- 3 頁

三 圃 場 栽 培 = ヨ ル モ / ----- 4 頁

1 三要素適量試験 ----- 4 頁

2 地力減耗試験 ----- 5 頁

3 石灰肥効試験 ----- 6 頁

Ⅱ 排 水 = 関 ス ル 試 驗 --- 7 頁

一 排 水 方 法 試 驗 --- 7 頁

Ⅲ 耕 鋤 = 関 ス ル 試 驗 --- 9 頁

一 畦 並 方 向 試 驗 --- 9 頁

Ⅳ 豐 凶 考 照 試 驗 ----- / 0 頁

Ⅴ 機 械 耕 作 試 驗 ----- / 1 頁

第 二 事 業 ----- / 4 頁

Ⅰ 調 査 ----- / 4 頁

一 土 地 改 良 = 関 ス ル モ / ----- / 4 頁

1 土 壤 水 分 / 測 定 ----- / 4 頁

2 水 素 イ オン / 測 定 ----- / 5 頁

三 紫 外 線 量 / 測 定 ----- / 5 頁

二 機 械 = 関 ス ル モ / ----- / 5 頁

1 牽 引 馬 力 / 測 定 ----- / 5 頁

2 機 械 / 効 程 調 査 ----- / 5 頁

三 農 業 經 營 經 濟 = 関 ス ル モ / / 6 頁

1. 農 家 所 得 及 各 件 物 採 支 / 調 査 / 6 頁

2. 各 地 新 種 概 況 / 調 査 ----- / 6 頁

3. 各 地 家 畜 事 情 / 調 査 ----- / 7 頁

- 4. 附近農村作況調査 - - - - - 18頁
- 5. 北滿洲作柄豫想調査 - - - - - 18頁
- 6. 克山諸物價調査 - - - - - 18頁
- 7. 貨幣相場ノ調査 - - - - - 19頁
- 8. 克山勞賃調査 - - - - - 19頁
- 9. 其他農業經營經濟=関スル調査 20頁

II 研究 - - - - - 21頁

一 土地改良=関スルモノ - - - - - 21頁

- 1. 北滿洲降水量, 季節, 相割=関スル研究 21頁
- 2. 克山=於ケル降水=関スル研究 21頁
- 3. 作物ノ生育並ニ=收量ニ及ボス氣
象要素ノ季節相関=関スル研究 21頁
- 4. 排水溝ノ深度並ニ渠ノ間隔ノ差違ガ
排水量ニ及ボス研究 21頁

= 農業經營經濟=関スルモノ 22頁

- 1. 機械耕作大農經營ト在業經營ト
比較研究 22頁
- 2. 各作物生産費低下=関スル研究 22頁
- 3. 副業又ハ副職業=関スル研究 22頁

- 4. 生産諸部門ノ組合ニ関スル研究 23頁
- 5. 自家勞力ト雇傭勞力ニ関スル研究 23頁
- 6. 其他農業經營經濟=関スル研究 23頁

III 指導及普及獎勵 - - - - - 24頁

- 一 優良種苗, 配付 - - - - - 24頁
- 二 作物病蟲害ノ驅除 - - - - - 24頁
- 三 農業指導員及見習生ノ養成 24頁
- 四 品評會ノ開催 - - - - - 24頁

IV 農具ノ改良 - - - - - 24頁

大豆粒選機

V 資料ノ蒐集 - - - - - 25頁

VI 氣象ノ觀測 - - - - - 25頁

VII 講習並ニ講話 - - - - - 25頁

附 錄

I 供試地積及ニ鉢數 1頁

II 農藝物理行組織 1頁

試驗

I 肥料試驗

一 植物栽培法

二 三要素適量試驗

目的 大豆、小麥、重麻、馬鈴薯之施用
 *肥料三要素、適量ヲ驗知セントス。
 耕種法

作物名	播種期	播種法	株本	種中耕	培土	灌水
大豆	5月中旬	點播	2本	2回	2回	適時給
小麥	4月下旬	點播	5本	2回	1回	〃
重麻	5月下旬	撒播	200本	2回	—	〃
馬鈴薯	5月下旬	點播	1本	2回	2回	〃

輪作法 大豆—小麥—重麻—馬鈴薯—大豆

供試材料 大豆 克山在素種
 小麥 札幌春小麥
 重麻 ヲルノ一種
 馬鈴薯 克山在素黃種

供試土壤 當場圃場表土
 供試肥料 氮素肥料 硫酸銨母尼重
 磷酸肥料 重過磷酸石灰
 加里肥料 塩化加里

(a) 窒素適量查定區

區別	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區
一階當	—	—	20	30	40	60	80	100	120
二階當	—	60	60	60	60	60	60	60	60
三階當	—	60	60	60	60	60	60	60	60
一階當	—	—	0.10	0.15	0.20	0.30	0.40	0.50	0.60
二階當	—	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
三階當	—	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30

(b) 磷酸適量查定區

區別	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
一階當	60	60	60	60	60	60	60
二階當	—	20	30	40	80	100	120
三階當	60	60	60	60	60	60	60
一階當	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
二階當	—	0.10	0.15	0.20	0.40	0.50	0.60
三階當	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30

(c) 加里適量查定區

區別	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
一階當	60	60	60	60	60	60	60
二階當	60	60	60	60	60	60	60
三階當	—	20	30	40	80	100	120
一階當	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
二階當	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
三階當	—	0.10	0.15	0.20	0.40	0.50	0.60

備考 全肥料基肥以
 一區面積及二區制 1畝 200,000 倍3區制
 計 276個

二 土管栽培 = ヨルモ /

3

1 地方減粒試験

目的 肥料施用と無施用並 = 輪作と連作 =
 地方減粒状態ヲ知ラントス
 耕種梗概

作物	播種期	播種法	土管個 供試法	播種回	培土 回数	灌水
大豆	5月中旬	點播	4本	2回	2回	適量
粟	5月中旬	點播	1本	2回	1回	—
小麥	4月中旬	點播	6本	2回	1回	—

輪作法 大豆—粟—小麥—大豆

供試材料 大豆 克山在末種
 粟 克山在末種
 小麥 札幌春小麥
 供試土壤 當場圃場表土
 供試肥料 窒素肥料 硫酸安母尼亞
 磷酸肥料 重過磷酸石灰
 加里肥料 塩化加里

試験區別

- (a) 連作無肥区
- (b) 連作施肥区
 陷当三要素各々60粒施用—土管一個当a6粒
- (c) 輪作無肥区
- (d) 輪作施肥区
 施肥量、連作施肥区 = 同

一区面積及區別 土管一個 700,000 角 3 区制

計 36個

4

三 圃場栽培 = ヨルモ /

1 三要素適量試験

目的 大豆小麥芝麻馬鈴薯 = 施用三要素、適量、植木鉢栽培試験並行セル圃場
 栽培試験 = ヨリ 查定セントス
 耕種梗概

作物	播種法	陷当 播種	畦巾	播巾	株間	備考
大豆	點播	60粒	60種	—	15種	3粒點播同引行2 本
小麥	條播	60粒	60種	15種	—	—
芝麻	撒播	120粒	—	—	—	—
馬鈴薯	點播	2,000	60種	—	30種	—

其、他 植木鉢三要素適量試験 = 同

供試材料 大豆 克山在末種
 小麥 札幌春小麥
 芝麻 ベルノ一種
 馬鈴薯 克山在末種
 供試肥料 窒素肥料 硫酸安母尼亞
 磷酸肥料 重過磷酸石灰
 加里肥料 塩化加里

試験區別

(a) 窒素 適量 查定 区

窒素	第一区	第二区	第三区	第四区	第五区	第六区	第七区	第八区	第九区
—	—	—	20	30	40	60	80	100	120
—	—	60	60	60	60	60	60	60	60
—	—	60	60	60	60	60	60	60	60

(b) 磷酸適量查定區

5 6

肥料別	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
全素肥料	60 担	60	60	60	60	60	60
磷酸肥料	一担	20	30	40	80	100	120
加里肥料	60 担	60	60	60	60	60	60

(c) 加里適量查定區

肥料別	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
全素肥料	60 担	60	60	60	60	60	60
磷酸肥料	60 担	60	60	60	60	60	60
加里肥料	一担	20	30	40	80	100	120

備考 全肥料基肥トス

一區面積及二區制 0.3 垂 2 區制

2. 地方減耗試驗

目的 肥料施用及無施用並=輪作及連作=ヨリ地方減耗狀態を管見せしめ試験並に田圃均等化試験=ヨリ知ラシム

耕種便處

大豆、小麥、圃場三要素適量試驗田

粟 播種期 5月下旬

播種法 條播

播種量 8 担 (1 畝)

除草甲種 2 回

培土 1 回

輪作法 大豆一畝一小麥一大豆

供試材料

大豆 克山在系種

粟 克山在系種

小麥 札幌系小麥

供試肥料 全素肥料 硫酸安母尼亞
磷酸肥料 重過磷酸石灰
加里肥料 塩化加里

試驗區別 (a) 連作無肥區
(b) 連作施肥區
圃場三要素各 60 担施用
(c) 輪作無肥區
輪作施肥區
圃場施肥區=同シ

一區面積及二區制 0.3 垂 2 區制

3. 石灰肥効試驗

目的 大豆、小麥、圃場及馬鈴薯=輪作=之=對シ石灰肥効ヲ知ラシム

耕種便處

供試肥料 圃場三要素適量試驗=同シ

供試肥料 全素肥料 硫酸安母尼亞

磷酸肥料 重過磷酸石灰

加里肥料 塩化加里

石灰肥料 肥料用石灰

試驗區別 第一區、完全無肥區第二區以下、各區共三要素適量 60 担施用ス

區別	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區
石灰施用量	—	—	200 担	300	400	500	800	1000	1200

備考 全肥料基肥トス

一區面積及二區制 0.3 垂 2 區制

II 排水=関スル試験

一 排水方法試験

目的 各種排水法の農作物生育並=収量=及影響ヲ知
ラントス

耕種標榜

供試作物 大豆 宛上在表種
小麥 札幌春小麥

播種期 大豆 5月上旬
小麥 4月下旬

播種法 大豆 點播
小麥 條播

播種量 大豆 160粒(陌当)
小麥 60粒(今)

畦 中 60 畦
肥料 無 肥
除草 2 回
中耕 1回(大豆行方)
培土 2 回

試験區別 一区=大豆小麥ヲ折半栽培ス

供試面積及土區制 1区20畝(140米長+50米) 一畝制

1 暗渠排水法

暗渠の構造 底 中 2.5 堀
深 4.0 堀
勾 1/100

排水方法

(i) 木材排水法

供試材料

(100米当)
木材 100本
直径 10厘米以外
長 4米以外
粗 糸 1000粒

埋設方法

木材ヲ一本一束トシ粗糸ヲ敷切ル渠ニ埋
メ再ヒ粗糸ニテ被ヒ覆土ス。

(ii) 灌木排水法

供試材料

(100米当)
灌木 3500粒

埋設方法

灌木ヲ30厘米以外ニ切斷シ渠内ニ層根取ニ粗
糸中央ニ空隙ヲ作り後覆土ス

(iii) 石礫排水法

供試材料

(100米当)
石礫 10.5立方米
粗 糸 1000粒

埋設方法

渠底ニ粗糸ヲ敷切ル礫水ヲ用テ埋設
シタルモ30厘米厚ニ埋メ再ヒ粗
糸ヲ以テ被ヒ後覆土ス

(iv) 土管排水法

供試材料

(100米当)
土管 217本
内径 10 厘米
長 4.5 厘米
粗 糸 1000粒

埋設方法...渠底=粗米ヲ敷キタル後
土管ノ總目ニ小シ矩ノ間
隙ヲ狭シクマメ敷キ後粗
米ニテ板ニ覆ニス。

2. 明渠排水法

明渠ノ構造 上 巾 1.00米
底 巾 0.45米
深 勾 1.40米
配 1.00分/1

III 耕鋤=閑スル試験

一 畦立方向試験

目的 畦立方向ヲ異ニセル圃場ニツキ氣温地温
ノ差異ヲ調査シ作物ノ生育收量並ニ品質
ニ及ボス影響ヲ知ラントス

耕種梗概 排水方試験=單*

試験區別 平地地=於ケル畦ノ方向
1. 東 西
2. 南 北
傾斜地=於ケル畦ノ方向
(1) 同高線=平行
1. 東 西
2. 南 北
(2) 同高線=垂直
1. 東 西
2. 南 北

供試面積並ニ區別 2,3 區宛 二區制

10. IV 豊凶参照試験

目的 大豆小麦粟ノ三作物ヲ在来法ニヨリ栽培
シ當地方ニ於ケル豊凶ヲ参照セントス

(1) 大豆 耕種梗概

供試品種	克山在来種
播種期	5月上旬
播種法	友種
播種量	60粒(每畝2.8斗)
畦間	7.2寸
肥料	厩糞1100粒(14車分)
除草	2回、別=1回大草拔キ行フ
中耕培土	2回
供試地積	1畧
前作物	粟

(2) 小麦 耕種梗概

供試品種	克山在来種
播種期	4月下旬
播種法	鐘種
播種量	120粒(每畝5.6斗)
畦間	1.20寸
肥料	無肥
除草	1回
中耕培土	行ハズ
供試地積	1畧
前作物	大豆

(5) 粟
耕種梗概

供試品種 売山在来種
播種期 5月中旬
播種法 壞種
播種量 1.3畝(在来種6.3畝)
畦巾 7.2畝
肥料 無肥
除草 2回別=1回草拔ヲ行フ
間引 1回(第1回除草際)
中耕培土 2回
供試地積 1畝
前作物 大豆

Ⅳ 機械耕作試験

目的 大豆小麥粟ヲ機械及ロ在来農具ニヨリ耕作シ其ノ生育收量並ニ品質ニ及ボス影響ヲ知リ且ツ兩者ノ經濟的関係ヲ比較研究セトス

(1) 機械耕作区(全区8.7畝)

1 大豆
耕種梗概

耕鋤法 トラクタープラウ=依リ
(15畝-20畝)=耕鋤ス
整地 同上
耕起 インターナショナルハー
ベスター社製NO8プラウ
ヲ及ミーソックデーリン
カトラクター(10-20馬力)
=依リ牽曳犁耕ス

11 12

耕種梗概

デスクハロウ及パイカツ
スハロウ及ロカルタパ
ツカーヲ縦列=連結シマ
コーミソクトラクター=

供試品種 売山在来種
播種期 5月上旬
播種法 ローンドリルヲトラク
二=テ牽曳條播ス
播種量 7.0畝(在来種3.1斗)
畦巾 5.3畝
肥料 11000畝(14單分)陪畝
除草 2回
中耕 2回
收穫調製

カーレントタイプNO8コ
ンバインドハーベスター
(10畝)ヲトラクター=牽曳
シ收穫調製ヲ行フ
供試地積 秋耕区 1.4畝
春耕区 2.1畝
前作物 小麥粟蔬菜

2 小麥
耕種梗概

耕鋤法 トラクタープラウ=依リ
10畝=耕鋤ス
整地 同上
耕起 プラウトラクター(10-
20馬力)=21牽曳犁耕ス
耕種梗概 デスクハロウ、スハロ
ウ、ロカルタパツカーヲ縦列
=連結シコレヲトラクター
=テ牽曳シ耕起地均鎮圧
ヲ行ヒ平畦トナス

供試品種 克山在来種 13
 播種期 4月下旬
 播種法 グレインドリルヲトラクタ
 タニテ条間條播ス
 播種量 140 粒 (在来種6.4倍)
 畦巾 1.5 握
 肥料 無肥
 除草中耕 ナシ
 收穫 デーリング、グレインバイ
 ンダー(80cm)ヲトラクター
 ニ依リ条間シ收穫ス
 調製 20馬力開スレッシヤ
 ニテ調製ス
 供試地積 春耕区 40 陷
 前作物 粟大豆

3 粟
 新種採獲

耕鋤法 トラクタープラツ = 依リ
 10 握 = 耕鋤ス
 整地 小麥 = 同シ
 供試品種 克山在来種
 播種期 5月中旬
 播種法 グレインドリルヲ隔孔 =
 挿塞シ播種ヲ30 握トシ
 トラクターニテ条間條播
 播種量 15 握 (在来種×3.3倍)
 畦巾 30 握
 肥料 無肥
 除草 2 回
 中耕 2 回
 收穫調製 バインダー = 依リ收穫シ
 在来法 = 依リ調製ス
 供試地積 13 陷
 前作物 大豆玉蜀黍
 (四) 在来耕作区 豊山孝昭試験区ヲ用フ

14 第 = 事業

I 調査

一 土地改良 = 開スルモノ

1 土壤水分ノ測定

目的 耕鋤深度ヲ異 = スル圃場 = 於テ土壤
 水分ヲ測定シ各作物 = 就ニテ其ノ生
 産力トノ關係ヲ知ラントス

耕種校概

供試作物 大豆 克山在来種
 小麥 札幌春小麥
 供試肥料 無肥

試験區別

耕鋤深度別 春耕 10 20 30 握
 秋耕 10 20 30 握

土壤採集深度

1. 地表
2. 地表ヨリ 5 握 (旧ノ握程)
3. 地表ヨリ 10 握
4. 地表ヨリ 20 握
5. 地表ヨリ 30 握
6. 地表ヨリ 40 握

測定期

4月中旬ヨリ 10月下旬マデ 10日
 置 = 20 回

測定方法

一個所ヨリ = 點宛

供試地積 / 區 / 區制

15 16

其他 排水方法試驗 / 耕種概観 = 同シ

2. 水素イオン / 測定

3. 紫外線 / 測定

二 機械 = 測スル 調査

1. 牽引馬力 / 測定 調査

目的: トラクター 及 農馬 / 牽引力 / 測定シテ / 耕作運搬 / 能率ヲ知リ / 經營經濟改善 / 資料 = 供セントス

調査方法

1. トラクター = テ 各種耕作機別 = 牽引シテ / 機械 = 要スル馬力ヲ 測定別ニ 調査ス

2. 農馬 = テ 在来農具ヲ 牽引シテ / 農具 = 要スル馬力ヲ 調査ス

2. 機械 / 効程 調査

目的: 當農場 = 於ケル トラクター 及 耕作機 / 作業効程ヲ 調査シテ / 機械經營ノ 資料ヲ得トス

調査項目

トラクター 及 耕作機 / 耕種 / 收穫 / 脱穀等 / 各作業 = 於ケル 効程ヲ 調査ス

三 農業經營經濟 = 測スル 調査

1. 農家所得及 各作物收支 / 調査

目的: 崑山縣城附近有識農家 / 8 戸 (大農 6 戸 / 中農 6 戸 / 小農 6 戸) = 付モ / 均向ノ 農家所得及 各作物收支ヲ 調査シテ / 農業經營改善ノ 資料 = 供シテ / 機械耕作 / 大農經營ト / 比較 = 供セントス

調査方法: 前記指定農家 = 日記帳 (現金 現物 勞働) / ヲ 配付 / 且 毎月 / 區 調査員ヲ 派遣シテ / 簿記 = 閱スル事ヲ 指導シ / 農家記載事項ヲ 訂正シ / 最後 = 之ガ 集計ヲ 本股 = 於テ 行フ

指定農家

小農	7 戸以上 — 21 戸未満	6 戸
	(10 畝以上 — 30 畝未満)	
中農	21 戸以上 — 36 戸未満	6 戸
	(30 畝以上 — 50 畝未満)	
大農	36 戸以上	6 戸
	(50 畝以上)	

2. 各地耕種概況 / 調査

目的: 北滿各地 / 耕種方法ヲ 調査シテ / 本場試驗 / 參考ヲ 行ハル / 且 各地耕種方法 / 改善 = 資セシムル 目的トス

調査地域 本年度、調査地域ハ克山、拜泉、訥
河、綏化附近ナリ

調査項目 主要作物名、作付面積及ヒ收量並ニ之
レ、或モ遷主要作物、整地、施肥、除草
、間引、中耕、培土、收穫、調製、方
法並ニ之レニ要スル努力、
作物、組合セト輪作関係等

調査時期 克山附近ハ各作業時期ニ之ヲ行フ
拜泉、訥河、綏化、11月

3 各地家畜事情、調査

目的 以下、諸項目ヲ調査シ家畜、改良ニ資シ
併セテ家畜、農業經營ニ及ボス影響ヲ知
ラントス

調査項目 縣内大家畜飼養頭數、ノ戸当飼養頭
數、的當飼養頭數、指定農家經營別
(大中小別) 的當飼養頭數、家畜、飼
養、管理、繁殖、情況、家畜、價額
及ヒ諸費用

調査地域及ヒ時期

耕種概況調査ニ同シ

4 附近農村作況調査

調査村落 昨年度施行部落タル克山縣城附近ノ
々村(肇山屯、吉祥屯、長老屯、長甸
子、九十九号、太平屯、奉天屯、南
生計地)

5 北滿州作物產額調査

6 克山雜物價調査

目的 以下、諸項目ヲ調査シ農業政策、參考ニ
供ス

調査項目及ヒ其、方法

(1) 農作物

「毎日、最高最低及ヒ平均、農民、
賣價ヲ調査スルモ、
大豆、小米、粟、大麦、玉蜀黍、
高粱、子實用大麻、苧

(1) 10日 = 1回旬日 / 平均賣價ヲ調

査スルモノ

綠豆、小豆、菜豆、蚕豆、豌豆、
黍、蕎麥、稗(子實)、大麻、青麻、
葉用草、及(1) 副産物(苧麻、蘇等)

(2) 小賣物價

(1) 10日 = 1回旬日 / 平均ヲ調査ス

ルモノ

指白票、麥粉、包米渣子、高粱渣
子、白米、鷄卵、食塩、醬油、砂
糖、粉條子、豆粕、其他油粕、酒粕

7 貨幣相場 / 調査

克山國幣對金幣、上ル對金、相場

8 克山勞賃調査

(1) 農業勞賃 / 調査

克山縣城及(1)附近農業勞働市場 =
於ケル毎日、最高最低及(1)平均、
勞賃調査、農業經營政策、資料ヲス

(2) 土建勞賃 / 調査

克山縣城及(1)附近、土建勞働市場 =

於ケル10日 = 1回旬日、平均勞賃ヲ

調査シ、農業勞賃ト、比較ニ供ス

9 其他各地農業經營經濟ニ関スル調査

調査項目 度量衡、農家、家族員數、雇傭勞

力、財產(土地及(1)農具投資)耕作
關係、主要作物收支、農産物販賣
副業、金融、租稅等

調査、地域時期及(1)方法

耕種概況調査、際ニ概調査ヲ行、外

特定、農家若干ニ就キシヲ行フ。

II 研究

1. 土地改良 = 関スルモノ

ノ北滿洲降水量ノ季節相関 = 関スル研究

目的 滿洲ノ個所ト太平洋沿岸ノ個所トニ於ケル土地ノ氣圧ノ配置狀態ヲ比較シテ北滿洲ニ於ケル多雨期ノ降水量ノ豫想ヲサントス

調査地 北海道 根室

2. 克山ニ於ケル降水 = 関スル研究

目的 克山地方ニ於ケル降水ヲ猶ス風向降水ノ密度並ニ降水ノ原因ヲ知ラントス

3. 作物ノ生育並ニ收量ニ及ボス氣象要素ノ季節相関 = 関スル研究

目的 作物ノ生育期間中ノ氣象要素ト農作物ノ生育並ニ收量トノ相関ヲ知ラントス

4. 排水溝ノ深度並ニ渠ノ間隔ノ差異ガ排水量ニ及ボス研究

21. 22.

= 農業経営經濟 = 関スルモノ

1. 機械耕作大農經營ノ在未經濶トノ比較研究
機械耕作試驗、農家所得及ヒ各作物ノ收支調査及ヒ一般農家經濟調査ヲ基礎トシテ兩經營ヲ比較シ機械耕作ノ場合ニ於ケル資本ノ^取捨配合度合ノ^取算ヨリ進ミ將來ノ機械耕作經營ノ可能性ヲ測定ス

2. 各作物生産費低下 = 関スル研究

各作物ノ收支調査、耕種相関調査及ヒ育種科、農藝物理科ニ於テ行フ試驗ヲ基礎トシ勞力費、低下收量品質ノ増加改良ノニ方途ヨリ生産費ノ低下可能性ヲ研究ス

3. 副業又ハ副職業 = 関スル研究

農家經濟調査中ノ各月自家勞力利用狀態ヲ基礎トシテ養畜、農產製造、採草林ノ取入程度、特ニ婦人小供ノ行フベキ業務ニ就キ研究ス。

- 23
- 4. 生産諸部門ノ組合ニ関スル研究
各作物收支調査其ノ他農家經濟調査ヲ基礎
トシ各作物ノ配合割合(自家消費作物ト
市場作物地力維持作物ト地力減耗作物各々
配合割合)ヲ研究ス
 - 5. 自家勞力ト雇傭勞力ニ関スル研究
農家所得及ヒ各作物收支調査ヲ基礎トシ雇
傭勞力ノ取入歩合ヲ研究シ得セテカレノ所
得及ボス影響ヲ研究ス
 - 6. 其ノ他農業經營經濟ニ関スル研究

24 Ⅲ 指導 及ヒ 普及獎勵

一 優良種苗ノ配付

品目 小麦 大豆
方法 10年計畫ニシテ將來ハ本場育成
種子ヲ配付ノ豫定ナルモ、本年度
ハ各地優良種子ヲ買上、上之ヲ配
付ス

地域 葛吉林、黑龍江兩省ノ大部分ニ亘ル
ニ 作物病蟲害ノ驅除

三 農業指導員及ヒ見習生ノ養成

四 品評會ノ開催

品種改良、精農獎勵、爲メ克山縣
近諸縣產主作物ノ品評會ヲ11月ニ
開催ス

Ⅳ 農具ノ改良

大豆ノ粒選機
色豆、虫喰、破碎粒、不熟粒ヲ雜
物(石、砂土塵)等ヲ除去スル機械設計

丁 資料ノ蒐集
戊 氣象ノ觀測
己 講習善 = 講話。

25

附 録

I

Ⅱ 供試地積及鉢数

一 供試地積

試験或ハ調査別	地積	枚数
圃地栽培=ヨル 肥料試験	三要素適量試験	2,552
	地力減耗試験	2,092
	石灰肥効試験	2,216
	小計	2,840
排水=閑スル試験	排水方法試験	1,000
耕鋤=閑スル試験	畦立方向試験	2,036
豊凶参照試験		3,000
機械耕作試験		87,000
土壌水分測定		20,580
排水程度=閑スル圃地		1,250
計		93,186

備考 機械耕作試験中、在来区、豊凶参照試験区
ヨリ其ノマニ用アル故面積ヨリケズ

二 鉢 及 口 土 管 数

試験別	鉢数 土管数	枚数
圃地栽培=ヨル肥料試験	三要素適量試験	2,766
土管栽培=ヨル肥料試験	地力減耗試験	36

Ⅱ 農 藝 物 理 科 組 織

- 土 地 改 良 股
- 農 業 機 械 股
- 農 業 經 營 股